

東 風

第21号

平成17年 3 月

「海外教育事情視察から学ぶ」 島尻教育研究所 所 長 金城 弘一
「教えること」と「考えさせること」 島尻地区校長会 小学校会長 比嘉 泰男
「第1回長期研修修了者の会」に参加して 第13期教育研究員 与那嶺永子

■ 研究報告 島尻教育研究所 第21期教育研究員

- 教育研究員一覧 ○ 「しのめ教室」実践事例報告
- 教育講演会 ○ 公開授業・パネルディスカッション
- 長期研修を振り返って ○ 第1回長期研修修了者の会 ○ 新着図書紹介



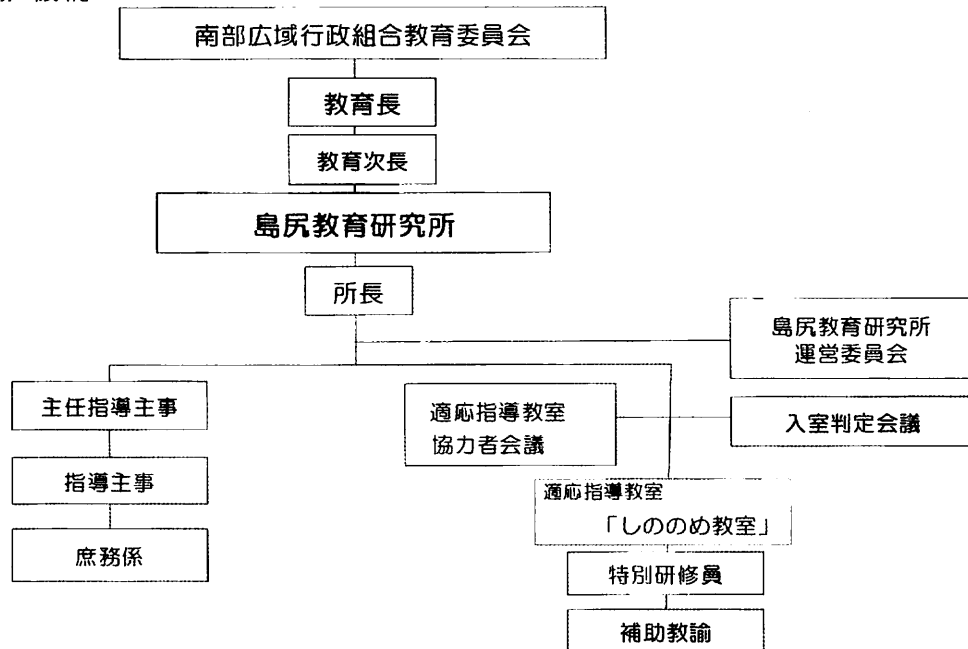
南部広域行政組合
島尻教育研究所

● 設置の目的

教育に関する調査・研究及び教育関係職員の研修を行い、資料提供並びに教育相談等の事業を通して、島尻地区における教育研究の中核的存在とする。

● 組織

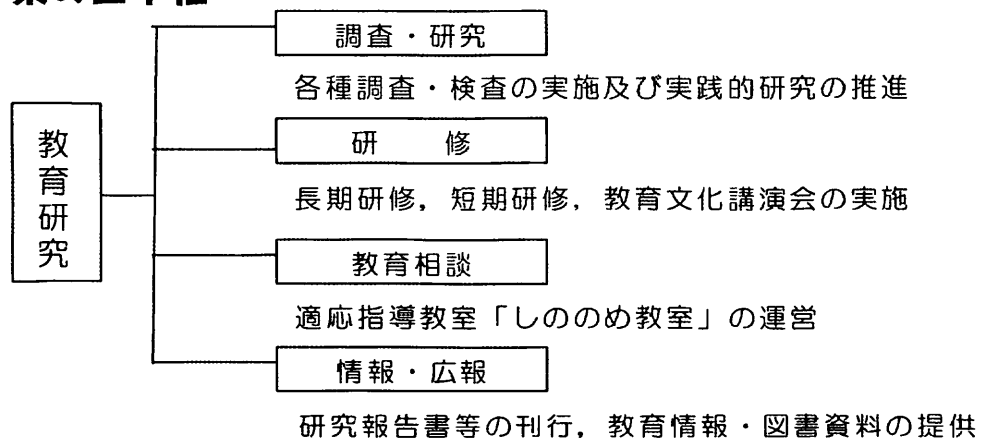
1 組織・機構



2 所員

所 長	金城 弘一	しののめ教室 担当	
		特別研修員 補助教諭	大城 直樹 山内 修子 立津 ゆかり
主任指導主事	安谷屋守松		
指導主事	甲斐 英児	庶 務	宮里 紀子

● 事業の四本柱



目 次

「海外教育事情視察から学ぶ」	
島尻教育研究所 所長 金城弘一	1
「教えること」と「考えさせること」	
島尻地区校長会小学校 会長 比嘉泰男	2
「第1回長期研修修了者の会」に参加して	
第13期教育研究員 委員長 与那嶺永子	3
平成16年度教育講演会	4
公開授業・パネルディスカッション	5
「第1回長期研修修了者の会」の開催	6
平成16年度「しののめ教室」実践報告	7
平成16年度第21期教育研究員テーマ一覧	8
研究報告（第21期教育研究員）	
(1) 玉城村立玉城幼稚園 教諭 伊集 恒子	9
(2) 南風原町立北丘小学校 教諭 宮平やすみ	10
(3) 豊見城市立長嶺小学校 教諭 仲村 保	11
(4) 豊見城市立とよみ小学校 教諭 森 力	12
(5) 佐敷町立佐敷小学校 教諭 新崎 蘭子	13
(6) 豊見城市立伊良波中学校 教諭 比嘉 正樹	14
(7) 豊見城市立長嶺中学校 教諭 桃原 秀美	15
長期研修を振り返って 第21期委員長 比嘉正樹	16
平成17年度教育研究員一覧	17
平成16年度購入書籍の紹介	18
島尻教育研究所 逍遙歌	



海外教育事情視察から学ぶ

島尻教育研究所 所長 金城 弘一

第15期中央教育審議会は「国際化が急速に進展する中で、絶えず国際社会に生きているという広い視野を持つとともに、国を超えて相互に理解し合うこと。」を謳っている。その趣旨に基づき私も数年前、文部科学省教員海外派遣研修の機会を得て、スペイン、レリダ市の教育事情に触れる研修ができた。団員は小・中・高等学校の校長、教頭、教員の21名で構成し、その団長をおおせつかった。自ら海外の教育事情に直接触れることができることに期待が膨らんだ。

スペインは、初等中等学校の枠組みを変える「一般教育制度」が1990年に成立し、その移行が進行中であった。改革は、義務教育の延長や、中等教育の再編を主な内容としていた。特に、地方分権など政治体制の変化、社会教育の状況や欧州統合に適応する制度の見直しや基礎教育における留年の増加、教育内容の過密、加速等に課題があり、改革を必要とした。そのような状況における研修視察から主な点について述べてみたい。

1 教育制度と改革

- (1) 初等教育が3歳～12歳まで、中等教育は13歳～18歳までで、7歳から16歳が義務教育である。
- (2) 義務教育は、従来7歳～14歳までの8年間であったが、新システムは8年から10年に延長された。
- (3) 各学校の指導計画は、カタルーニャ州レリダ市の方針に基づき、学校独自のプログラムを作成し実践されている。

2 子ども達の状況

子ども達の生活等調査によると、家族の一員としての役割を持ち、家庭学習はよく励む。社会施設などで課外活動も行っている。学校生活は、友だち・先生との関係がよい。学習することは楽しい。友だちには親切である。将来の夢はスポーツ選手、学校の先生、看護師などが多い。

3 学校訪問をしての所感

- (1) 心の教育について
 - ・幼児期に基本的なしつけができています。
 - ・一人一人を大切にされた教育をしている。
 - ・家庭や社会で教育がよくなされていて学校で取り立てて指導を要しない。
 - ・学校と親との連携がよい。
 - ・家庭、学校、地域がそれぞれの役割をよく果たしている等
- (2) 個性の伸張について
 - ・評価は個人の到達度を見る。
 - ・通知表は人間性と学業の二面から2ヵ年ごとに評価する。
 - ・児童のよさを見つけるため教師の専門性を生かす。
 - ・芸術面は放課後プロの指導を受ける。
 - ・課題選択、学習の遅れ気味な子への個別指導がある。
 - ・コンピュータ、音楽、体育等は専門職員が配置されている。
 - ・2年間の担任持ち上がり制で子どもの特性をよく把握している。
- (3) 創造性を育てる
 - ・子どもの自主性を育てるプログラム学習ができています。
 - ・評価は「子どもの能力をどれだけ引き出せるか」を重点としている。
 - ・日常生活で身につけたことを歌や体で表現しあっている。

以上のように日本と同様スペイン、レリダ市の学校教育も社会の変化への対応、基礎学力等改革の途中であった。

その他にも歴史を物語る聖堂、ピレネー山脈の雄大な自然、ピカソ・ベラスケスなど著名な画家の絵画も目に触れることができた。短期間の学校視察で、十分把握しきれない部分があるとはいえ、スペイン、レリダ市で得たことは貴重な体験であった。又、改めて日本の学校教育のよさを見直す機会にもなった。



随想

「教えること」と「考えさせること」

島尻地区校長会小学校会長
比 嘉 泰 男

「^{あんばい}塩梅」というのは、塩と梅で調理することである。一般に料理の味加減を調えるという意味がある。そこから物事のほどあい、かげんといった意味、あるいはほどよく並べたり、ほどよく処理したりする意味にも使われている。

今日の学校教育において「教えること」を「塩」、「考えさせること」を「梅」と考えたとき、自信を持ってほどよい味付けになっていると言えるでしょうか。

昭和30年代、筑波大学附属小学校4年生に「おもしろい授業」と「おもしろくない授業」について調査した資料によると次のようになっている。

おもしろい授業

①間違っ意見やいろいろな意見が出てくる授業 ②本物の材料を見たり、さわったり食べたりしながらする授業 ③「はてな？」を見つける授業 ④みんないろいろ考えて「分からないこと」が分かった授業 ⑤必ず笑いが出てくる授業……等

おもしろくない授業

①ノートばかりする授業 ②教科書だけを読む授業 ③テストの多い授業 ④いろいろな意見が出ない授業 ⑤資料を使わない授業……等

今回の教育課程の基準の改善に当たっての基本的考え方の中で、教育課程審議会は「子どもたちの成長への願いと学校への期待」として次のように述べている。

「前段省略……学校は子どもたちにとって伸び伸びと過ごせる楽しい場でなければならない。子どもたちが自分の興味・関心のあることにじっくり取り組めるゆとりがなければならない。また、分かりやすい授業が展開され、分からないことが自然に分からないと言え、学習につまずいたり、試行錯誤したりすることが当然のこととして受け入れられる学校でなければならない。そのためには、その基盤として子どもたちの好ましい人間関係や子どもたちと教師との信頼関係が確立し、学級の雰囲気も温かく、子どもたちが安心して自分の力を発揮できるような場でなければならない。このような教育環境の中で、教科の授業だけでなく、学校でのすべての生活を通して、子どもたちが友達や教師と共に学び合い活動する中で、自分がかげがえのない一人の人間として大切にされ、頼りにされていることを実感でき、存在感と自己実現の喜びを味わうことができることが大切であると考える。」

この期待（指摘）は当然のことのように思われるが、今日の学校にとっては、もっとも厳しい批判とも言えるのではないか。つまり、学校は分かりやすい授業を展開し、考える力を十分に培っているかという期待（指摘）でもある。「考えさせているのか」の一方に「教えるべきことを教えているか」という声もある。

「考えさせること」も「教えること」も、いずれも大切な指導の内容である。バランスを欠いては、教育にならないと思うのである。



「第1回長期研修修了者の会」に参加して

第13期教育研究員
与那嶺 永子

平成17年2月16日（水）17時30分より「第1回島尻教育研究所長期研修修了者の会」が開催されました。来賓の方々を始め、教育研究所関係の皆様方が多数ご来席下さり、私たち長期研修修了者を激励して下さいました事に感謝申し上げます。

第1期から第20期までの修了者の会員が147名もあり、大勢の仲間がいることを心強く思い、また大変嬉しく思いました。教育研究所で研修を深め、修了なさった先生方は学校や行政機関の中心的役割を担い、活躍していると聞いています。教育改革が進む中で、教師の意識改革と専門性を身に付けることが求められていますが、研修を通して教師としての資質能力や実践的指導力が高められたように思います。

私たち教育公務員はその職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければなりません。教育研究所では多くの先生方が様々な角度から研究に取り組まれています。教師として、より一層の資質向上を図るために、その研修の成果をみんなで共有し、島尻の子どもたちのために生かしていきたいものだと思います。そのためにはできるだけネットワークを広げ、多くの先生方を知り、多くの情報交換をする必要があります。その意味では今回の修了者の会が開催された事は大変意義深いものがあったと思います。

初代所長・宮城恒彦先生の講話は、和やかな雰囲気の中でユーモアがあり、温かみがあり、私たちに同業者の先輩として、また人生の大先輩として貴重なアドバイスをして下さいました。講話は大変おもしろく、もっともっと聞きたいような気持ちでした。ゆとりがあり、優雅に過ごしていらっしゃる恒彦先生の生き方が羨ましく、またたのしかったです。特に「教育一筋の生き方ではなく、複線の生き方を！」の言葉、是非自分のものとしたいと思いました。

それから、懇談会では多くの先生方と交流する事ができ、多くの人を知る事ができました。また同期の研修仲間、お世話になった当時の所長、指導主事の先生方に久々に会う事ができ、何より嬉しく思いました。大変楽しい一時でした。

あっという間に2時間が経過し、閉会しましたが、このような意義ある長期研修修了者の会は、今後もぜひ継続してほしいものです。

最後に本会を企画して下さいました島尻教育研究所の先生方に感謝を申し上げますと共に、教育研究所が今後ますます充実し、発展する事を祈念致します。

（現玉城村立百名小学校長）

教育講演会



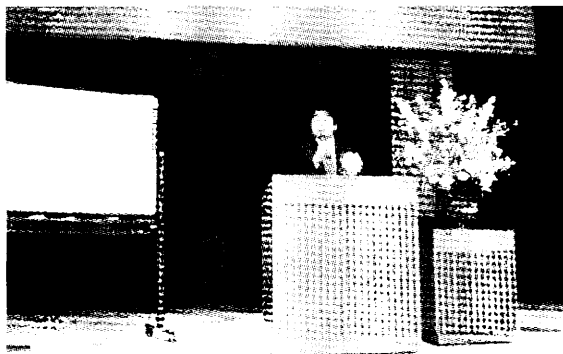
講師：永田 繁雄先生

心豊かで活力ある 子どもを育てる学校教育

島尻教育研究所主催の教育講演会を、平成17年2月10日（木）にシュガーホールで開催しました。今回は、国立沖縄青年の家との共催により、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官兼国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官の永田繁雄氏をお招きすることができました。

先生のご専門は道德教育で、今回の演題「心豊かで活力ある子どもを育てる学校教育」では、学校教育の中でどのように道德教育を進め、児童生徒一人一人に道德的実践力を培っていくかについて、具体的な事例やエピソードを交え、わかりやすくお話ししていただきました。特に、OECD学力到達度調査の結果などをもとに、学力の問題は意欲、目的意識、努力する習慣、かかわりの豊かさ等の問題であるにとらえ、「確かな学力」と「豊かな心」を併せた「豊かな学力」をいかに子どもたちに育てていくのかなど、知と徳の関係を解説していただきました。

会場に詰めかけた、400余名の教育関係者は熱心に耳を傾け、今後の道德教育の在り方について理解を深めることができました。



今後の道德教育について熱く語る永田先生



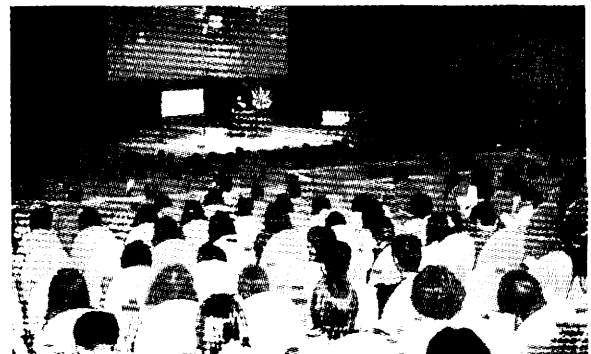
熱心に耳を傾ける参加者の皆さん

お知らせ

教育講演会の模様は、ビデオテープとDVDで貸出ができます。

これまでの教育講演会のものも保管してありますので、ご利用の方は下記まで、お気軽に連絡してください。

TEL：998-9561 島尻教育研究所



400名を超える先生方で会場は埋まりました。

公開授業&パネルディスカッション

—自分らしさをのばす『ゆめ』のカー

—体験を通して豊かな心を育むための教育のあり方—

今回、教育講演会の講師としてお招きした永田繁雄先生は、東京学芸大学附属小学校などで教鞭を執られたご経験もあり、「自分らしさをのばす『ゆめ』の力」というテーマで公開授業も実施しました。授業会場は、沖縄本島から32km、船で1時間10分かかる渡嘉敷島で、対象はこの島に住む小学生14名です。会場は、海を渡って来た熱心な教師や島内の方など、70名を超える参観者で溢れ、本島内での授業参観と変わらぬ熱気に包まれました。

永田先生は漫画家の手塚治虫の生き方を教材化し、子どもたち一人一人とラポートを取りながら、ゆめを持つことの大切さに気づかせる道德の授業を実践してくださいました。

また、午後からは島尻教育事務所の城間 明指導課長がコーディネーターとなって、「体験を通して豊かな心を育むための教育のあり方」のテーマでパネルディスカッションが行われました。パネラーの永田先生の恩師である東京学芸大学教育学部の児島邦宏教授からは、「豊かな心の教育と体験学習の推進」、永田先生からは「文部科学省が進める心の教育」、また、沖縄県中学校校長会の長崎光義会長からは「中学校で目指す心の教育と体験」、沖縄県道德教育研究会の古謝久子会長からは「体験を通して豊かな心を育むための教育のあり方」さらに、国立沖縄青年の家の茅野敏英所長からは「青少年教育と体験」というテーマで一人ずつ提言などを行いました。

また、後半はフロアからの質問に答える形でそれぞれの立場から意見を述べました。



授業者の永田繁雄先生



子ども達の表情も真剣です。



海を渡り、大勢の方がやって来ました。



パネルディスカッションのようす

島尻教育研究所

総勢110名が参加

第1回修了者の会を開催

～平成17年2月16日(水)～

島尻教育研究所も、開所 10 年の節目を迎え、おかげさまで昨年の8月には記念式典等も無事終えることができました。また、修了者も 154 名（H.16.後期）を数えるまでになり、現在、学校や教育行政の各分野で活躍中です。

今回、「島尻教育研究所修了者の連携体制を図ることを通して、島尻教育研究所並びに島尻教育の発展に資する。」の趣旨のもと、『第1回島尻教育研究所長期研修修了者の会』を開催しました。会場には、市町村の教育長の方々、教育研究所運営委員、歴代の所員並びに平成6年度第1期から平成16年度の第21期の修了予定者まで、総勢110名のみなさんが参加してくださいました。日頃、顔を合わす機会も少ないためか、それぞれに再会を喜び、旧交を温める姿が見られました。

会では、初代所長の宮城恒彦氏による「来し方行く末」の講話があり、現在の教育事情に対する宮城先生の所感や今、教師に求められていること、また定年後の人生の上手な送り方等についてユーモアを交えながらお話していただきました。その後、各期のメンバー紹介、懇談などが行われ会員同士の親睦を深めました。わずか2時間程の会でしたが、この会の所期の目的を十分に達成することができました。今後は、年1回開催し、内容の充実を図るとともに会員相互の更なる連携体制の構築を目指していききたいと思います。



【初代所長宮城恒彦氏と講話を熱心に聞き入る参加者の皆さん】



【島尻教育研究所逍遙歌の斉唱】



【第1期から21期までの修了者の紹介では、各会の名称やメンバーの氏名、現任校などが紹介されました。】



【第2代所長の比嘉恒雄氏による乾杯の音頭の後、懇親会が行われ、思い出話に花が咲きました。】



平成 16 年度「しのめ教室」実践報告

－沖縄県スクーリング・サポート・ネットワーク整備事業(SSN)委託研究－

特別研修員 大城 直樹

(1) 研究の概要

昨年に引き続き、研究テーマを「心因性不登校児童生徒の自立をめざした適応指導」と設定し、昨年の課題を踏まえ、今年度の重点課題を次の5つに絞り実践的研究を進めた。

- (1) 集団適応指導と個別適応指導の工夫
- (2) 学習活動の工夫
- (3) 教育相談の工夫
- (4) 家庭・学校・教育委員会・その他関係機関との連携の工夫
- (5) SSN整備事業によるネットワークづくりの工夫

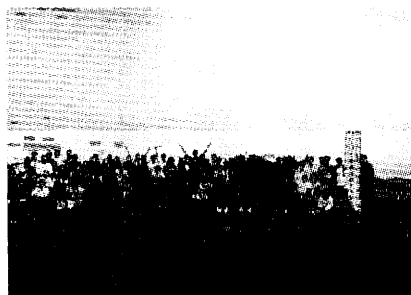
(2) 研究の視点

重点課題を解決する方向で、児童生徒の自立への効果的な援助指導を行うため、次の2つの研究の視点を設定した。

研究の視点1：児童生徒が自ら「気づく」→「考える」→「決める」→「行動する」というプロセスを積み上げる中で自立への力を育てる。

研究の視点2：児童生徒のリソース(資質、資源)を生かし「好きなこと」「できていること」に焦点を当て、それを拡大することによって自己肯定感(I am OK)を高め、自立への力を育てる。

(3) 援助指導の実際



自然体験キャンプ



ボランティア講師を
招いての学習



コンピュータ学習

(4) 児童生徒の変容

- ① 交流学习，社会見学を通して多くの人たちと関わることで，日常の活動意欲が高まった。
- ② ボランティア講師の専門的な指導により，達成感，成就感が生まれ自信につながった。
- ③ コンピューター学習等の個別学習で自分のペースでじっくり学習に取り組むようになった。

(5) 研究の成果と課題

- ① 体験活動，学習活動，教育相談を通して児童生徒のリソース（資質，資源）を生かしそれを拡大することで自己肯定感を高めることができた。
- ② SSN 整備事業を通して関係機関との連携を密にとり，ネットワークを強化して不登校対策に取り組むことができた。
- ③ 集団適応指導と個別適応指導のタイミングやバランスの工夫が必要である。
- ④ SSN 整備事業で得られた情報やスキルを資料としてまとめ，活用できる工夫が必要である。

平成16年度【後期】第21期教育研究員テーマ・指導講師一覧

研究員氏名	教科等	研究テーマ	指導講師
1 伊集 恒子 玉城幼稚園	幼稚園教育	一人一人が豊かに表現する力を育む援助の工夫 －身近な素材にかかわり活動することを通して－	糸満市立糸満幼稚園 教 頭 島袋 栄子
2 宮平やすみ 北丘小学校	国 語	自分の思いや考えを伝え合うことによって、学び合い、深め合う国語科の授業 －読み取ったことを伝え合う感想交流を通して－	元南風原町立翔南小学校 校 長 上原 弘子
3 仲村 保 長嶺小学校	社 会	社会認識を育てる問いの構造化による学習指導の工夫 －発問や資料の工夫、体験的な学習や考えを深める場の設定を通して－	島尻教育研究所 指導主事 甲斐 英児
4 森 力 とよみ小学校	算 数	基礎・基本の確実な定着を図る算数科指導のあり方 －個に応じた指導のための評価の工夫を通して－	東風平町立東風平小学校 教 頭 糸数 洋
5 新崎 蘭子 佐敷小学校	生 活	一人一人の思いや願いを生かす学習展開の工夫 －地域素材（佐敷干潟）の教材化を通して－	南風原町立北丘小学校 教 頭 津波 津賀子
6 比嘉 正樹 伊良波中学校	社 会	自ら学び考え、楽しさを実感できる授業の工夫 －学び方を学ぶ学習と討論学習を通して－	島尻教育研究所 主任指導主事 安谷屋 守松
7 桃原 秀美 長嶺中学校	英 語	基礎的・基本的事項の定着を図る学習指導の工夫 －ワークシートを活用した「書く」活動の指導を通して－	島尻教育事務所 指導主事 上原 義弘

<幼稚園教育>



一人一人が豊かに表現する力を育む援助の工夫

－ 身近な素材にかかわり活動することを通して －

玉城村立玉城幼稚園教諭 伊集 恒子

(1) 研究の概要

一人一人が豊かに表現する力を育むために、その子なりの表現を受け止め、楽しく表現できるように援助の工夫と環境構成の工夫を図った。

(2) 指導上の工夫点

- ① 様々な表現活動を引き出す環境構成の工夫
 - ・イメージを引き出すような環境構成をする。
 - ・素材との出会いを豊かにする。
 - ・幼児と共に環境を構成する。
- ② その子なりの表現を認め、楽しく表現するための援助の工夫
 - ・一人一人の興味や関心をとらえ、発達に必要な経験を促していく。
 - ・その子なりの表現を受け止めたり、認めたりして表現意欲を高める。

(3) 指導の実際



【三角屋根にしようね】



【僕のパトカーカッコいいでしょう】

(4) 幼児の変容

- ① 豊かな素材環境から、イメージした物を作り試したり、工夫したり試行錯誤を繰り返す中で、完成していく達成感を味わうようになった。
- ② 素材に触れ遊ぶ中で、その特性を生かしてイメージした物を作るようになった。また、一つの目的に向かい友達とイメージを共有しながら楽しく表現するようになった。
- ③ 身近な素材にかかわり、一人一人が自分なりの表現を楽しむようになり、それを使って明日の遊びへと継続して遊ぶ姿から満足感や充実感を味わうようになった。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 幼児の身近にいろいろな素材を整え、表現活動を引き出す工夫を図ったことで、幼児は自分なりにイメージをもち、様々な表現活動を楽しむようになった。
- ② 幼児に寄り添い興味や関心を読み取り、その子なりの表現を受け止めたり認めたりしながら援助していったことで、一人一人が豊かに表現する力が育っていった。
- ③ 幼児理解を深めるために、チーム保育の充実を図る。
- ④ 感性や表現する力を育むために、年間指導計画に基づき意図的・計画的に環境を構成する。

※詳細は平成16年度研究報告書『第21号』P1～P10に掲載



自分の思いや考えを伝え合うことによって、 学び合い、深め合う国語科の授業

－ 読み取ったことを伝え合う感想交流を通して －

南風原町立北丘小学校教諭 宮 平やすみ

(1) 研究の概要

学習過程の中に、読み取ったことを伝え合う場として「感想交流」を位置付けることによって、子供相互に読みを広げたり、深めたりして、学び合う国語科授業について研究をすすめた。

(2) 指導上の工夫点

子供相互に読みを広げたり、深めたりして、学び合う国語科の授業を目指して次のような工夫を行った。

① 学習過程の中に、子供の読みの段階に沿った「感想交流の場」を位置付けた。

・ [つかむ段階] [広げる段階] [深める段階] [まとめる段階]

② 子供の実態に応じて、対話の形態等を工夫した。

・ [ペアトーク] から [全体トークへ] ・ 対話の話型モデルの活用

・ [基調提案] － [検討] 方式

(3) 指導の実際



【まず、ペアトークで考えを広げよう】



【全体トークで、みんなの考えを交流しよう】

(4) 児童の変容

- ① 感想交流を繰り返し経験することによって、友達と進んで対話しようとする子が増えた。
- ② 感想交流を通して、友達と考えを伝え合い、聞き合うことで子供の「読み」に広がり、深まりが見られた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 学習過程に、読み取ったことを伝え合う感想交流を位置付けた単元の構想をすることによって、子供相互に学び合い、読みを深め合うことができた。
- ② 感想交流を成立させるための共感的な対話の話型モデルやトークノートを作成し、活用することによって話し合いを活性化することができた。
- ③ 感想交流を、より「読み」を深める場として活性化するための手だての工夫

詳細は平成16年度研究報告書『第21号』P11～P20に掲載



社会認識を育てる問いの構造化による学習指導の工夫

-発問や資料の工夫、体験的な学習や考えを深める場の設定を通して-

豊見城市立長嶺小学校教諭 仲 村 保

(1) 研究の概要

社会認識を育てるために、問題解決的な学習展開をもとに、学習内容を問いによって構造化した学習指導案を作成し、知識の習得が図れるよう指導の工夫を図った。

(2) 指導上の工夫点

社会認識を育てるために次のような指導の工夫を行った。

- ① 学習内容を問いによって構造化し、問いを解決していくことによって、知識の習得が図られるようにした。
- ② 発問や効果的な資料を活用し、問題意識を高め追究意欲を引き出した。
- ③ 調査や地域人材から学ぶ体験的な活動を取り入れ、社会的事象に対する事実認識を深めさせた。
- ④ 考えを深めるために、調べて分かったことや考えたことをノートにまとめたり、話し合ったりする場を設定した。

(3) 指導の実際



【地図資料の読み取りをしている様子】



【机間指導で子どもが読みとった内容の確認】

(4) 児童の変容

- ① 饒波川の汚れの原因を自分達の生活と関連させて考えるようになり問題意識が高まった。
- ② 饒波川の汚れの原因に対して、自分なりの解決方法を考えることができた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 問いの構造化により、学習内容を順序立てて習得させ、社会認識を育てることができた。
- ② 発問や効果的な資料、体験的な学習や考えを深める場の設定により、追究意欲を継続させ事実認識を深めることができた。
- ③ 主体的な学習活動にするための、調べ方・学び方指導の工夫
- ④ 子どもの思考を促すための、資料活用と発問の研究

※詳細は平成16年度研究報告書「第21号」P21～P30に掲載



基礎・基本の確実な定着を図る算数科指導のあり方 － 個に応じた指導のための評価の工夫を通して －

豊見城市立とよみ小学校教諭 森 力

(1) 研究の概要

基礎・基本の確実な定着を図るために、個に応じた指導を充実し、その指導に生かすための評価の工夫を行った。

(2) 指導上の工夫点

基礎・基本の確実な定着を図るために、次のような評価の工夫を行った。

- ① 既習の学力、学習適性・学習スタイル・学習意欲といった児童の実態を把握するための診断的評価を行った。
- ② 個に応じた手だてを意識した形成的評価を行った。
- ③ 形成的評価の総括をベースに、単元テストを加味した総括的評価を行った。
- ④ 児童に、目標を明確にした自己評価を行わせた。

(3) 指導の実際



【個に応じた手だての実際】



【問題に進んで取り組む児童の様子】

(4) 児童の変容

- ① 学習集団、問題提示、授業の進め方を工夫したことにより、問題に進んで取り組む児童が増えた。
- ② 個への手だて、単元ミニテスト（小単元テスト）を工夫したことにより、自分のつまずきに気づき、理解を確かにすることができた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 診断的評価を工夫し、その結果から、学習集団、問題提示、授業の進め方を工夫したことにより、児童の実態に合わせた授業づくりを進めることができた。
- ② 形成的評価を工夫し、その結果から、授業の進め方、個への手だて、単元ミニテスト（小単元テスト）を工夫したことにより、基礎・基本の確実な定着を図ることができた。
- ③ 総括的評価を工夫し、毎時間の評価を集計し、まとめテストや単元テストの結果を加味して単元の評定を出したことにより、児童一人一人の毎時間の状況を把握しながら基礎・基本の確実な定着を図ることができた。
- ④ 自己評価を工夫し、その結果から、個人内評価を積極的に進め、児童の意欲を高めることができた。
- ⑤ 習熟度別指導における学習集団の編成のあり方と数学的な考え方の指導と評価のあり方を工夫していきたい。

※詳細は平成16年度研究報告書『第21号』P31～P40に掲載



一人一人の思いや願いを生かす学習展開の工夫

－ 地域素材(佐敷干潟)の教材化を通して －

佐敷町立佐敷小学校教諭 新 崎 蘭 子

(1) 研究の概要

身近にある佐敷干潟を教材化して、四季を通してかかわらせる単元構成を行い、児童一人一人の思いや願いを生かした活動が展開できるよう、学習計画を工夫した。

(2) 指導上の工夫点

児童一人一人の思いや願いを生かした学習展開をめざし、地域素材(佐敷干潟)の教材化を図るうえで次のような工夫を行った。

- ① 四季を通してかかわらせる単元構成の工夫
- ② 小单元ごとにオリエンテーションの時間を設定する。
- ③ 他教科等との合科的・関連的な指導を取り入れる。
- ④ 地域人材や父母ボランティアを活用する。
- ⑤ 表現意欲を高めるための異年齢交流の場の設定と効果的な支援

(3) 指導の実際



【とんとんみー(トビハゼ)を見つけたよ！】



【1年生にクイズでしようかい】

(4) 児童の変容

- ① 児童が生き生きと干潟にかかわったり、多様な気付きを深めたり、地域に対して愛着を寄せ自然を大切にしようとする子が増えた。
- ② 1年生に伝える、という相手意識をもたせたことで、より詳しく観察したり調べたりする子が増えたと共に、2年生としての自覚も高められ、表現意欲がさらに高まった。
- ③ 表現方法の多様性に応え、発表の場における支援の工夫を行ったことで、一人一人が自信を持ち、自分なりに表現することができた。
- ④ 質問やクイズ、感想を交わし合う場を設定したことで、友達のよさに気付いたり、新たな気付きが深まったりした。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 身近な地域素材である佐敷干潟を教材化することができ、繰り返し干潟に関わらせる単元構成ができた。
- ② 合科的・関連的な学習計画や地域人材の活用、異年齢交流等を設定したことで、児童がゆとりを持って学習を進め、一人一人の思いや願いを生かした学習活動が展開できた。
- ③ 春から冬までの、四季を通して干潟とかかわらせる体験活動を実践していく。

※詳細は平成16年度研究報告書『第21号』P41～P50に掲載



自ら学び考え、楽しさを実感できる授業の工夫

－学び方を学ぶ学習と討論学習を通して－

豊見城市立伊良波中学校教諭 比 嘉 正 樹

(1) 研究の概要

学び方を学び、自ら学び考えたことを討論学習を通して参加・活動することにより、楽しさを実感することができる授業についての研究をすすめてきた。事例を通して課題学習を展開することで、学び方の技能が身に付き自ら学び考える生徒を育てることができた。更に討論学習会を行い、多くの生徒に発言の機会が与えられたことにより、授業の楽しさを実感する生徒を育てることができた。

(2) 指導上の工夫点

自ら学び考え、授業の楽しさを実感できるように次の工夫を行った。

- ① 学び方を学ぶ学習の工夫
 - ・ 学びの視点学習シートを作成し、それを活用して学び方を学ぶ学習を行った。
- ② 自ら学び考える力を育てる教師の支援
 - ・ 手だてシートを作成し、それを活用して指導を行った。
- ③ 楽しさを実感する授業の工夫
 - ・ 楽しさを実感する授業として、討論学習を行った。
 - ・ 討論学習を行うための過程を指導した。

(3) 指導の実際



【討論学習会の様子】



【他者の発表から学びを共有化させる場面】

(4) 生徒の変容

- ① 学び方を学んだ結果、自ら学び考えることができるようになった。
- ② 討論学習を行い、自ら学習活動に参加することにより、授業が楽しいと感じる生徒の割合が37%から94%へと増加した。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 自ら学び考えたことを他者に表現・発信する場において討論を行い、より多くの生徒に発言の機会が与えられたことにより、意欲的に学習に参加し、授業の楽しさを実感する生徒を育てることができた。
- ② 授業の楽しさを実感した生徒とできなかった生徒への更なる学習指導の工夫を行う。

※詳細は平成16年度研究報告書『第21号』P51～P60に掲載

基礎的・基本的事項の定着を図る学習指導の工夫

－ ワークシートを活用した「書く」活動の指導を通して －

豊見城市立長嶺中学校教諭 桃原 秀美



(1) 研究の概要

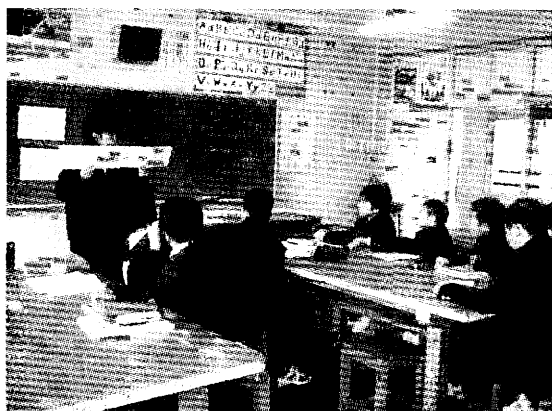
どの生徒にとっても、取り組みやすい「書くこと」の教材（ワークシート）を工夫し、個に応じた指導を継続して行うことによって基礎的・基本的事項を定着させることができた。

(2) 指導上の工夫点

基礎的・基本的事項の定着を図るために次のような工夫を行った。

- ① 「書く」活動における自作のワークシートの工夫
日々の授業の目標を設定し、その目標を達成できるように、個に応じたワークシートを作成し授業を行った。
- ② 個に応じた指導の工夫
学習過程において、生徒一人ひとりの伸び、つまづき等に気付くような支援、評価活動を行い、次の活動へつなげていくようにした。

(3) 指導の実際



【口頭練習をしている様子】



【ワークシートを使用し「書く」活動をしている様子】

(4) 生徒の変容

- ① 「書くこと」に対する苦手意識が軽減されてきた。
- ② 個に応じた指導を行うことにより、学習事項の理解が図られ、成就感が得られた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① ワークシートを工夫し、個に応じた指導を行うことによって、一人ひとりの基礎的・基本的事項の定着を図ることができた。
- ② 自作のワークシートを活用し、個に応じた指導を行うことによって、成就感が得られ、学習意欲が向上した。
- ③ 「書くこと」が実践的コミュニケーション能力の育成につながっていくように、生徒の個に応じたなお一層の指導を工夫の改善を考えていく。

※ 詳細は平成16年度研究報告書『第21号』P61～P70に掲載



長期研修を振り返って

第21期教育研究員 委員長 比 嘉 正 樹

若葉が芽を出し、春の訪れを感じさせる季節となりました。私達後期研究員の修了の日も近づいております。

思い起こせば昨年の10月、少しの不安を抱きつつ、それ以上に大きな喜びと期待で満ちあふれた私達7名は島尻教育研究所第21期生として入所してきました。個性豊かな7名が、各々の研究テーマと教育に対する情熱を抱き、出会った瞬間でした。誰一人知り合いはいなかった私達が、お互いのことを語り合うことにより意気投合し、切磋琢磨し合いながら向上していくすばらしい仲間となりました。

そんな私達にいつもやさしく声を掛け、「あなた達ならきっとできる」と常に励まして下さった金城所長。「自分が本当にやりたいことを追究しなさい」と、厳しくも温かく指導・助言を下さった安谷屋主任指導主事。わかりやすく詳細に指導を下さり、困ったときはいつでも相談にのって頂いた甲斐指導主事。研究員としての心構えから始まり、研究の進め方や研究内容、検証授業から発表に至るまで、全てにおいて私達と真剣に向き合い、より良き研究ができるように指導・助言して頂きました。

毎朝行われるミーティングや情報交換会による共通理解。月曜日の逍遙歌において一週間のスタートをきり、水曜日の「大切な話」や金曜日の「三分間スピーチ」でお互いの意見や考え、人生観にまで触れることができ、自分を見つめ直す機会となりました。

所内研修では金城所長より「これから求められる学校教育」をテーマに講話を頂き、研修の必要性や評価のあり方、学びのすすめや研究を進めるに当たっての心得等を学びました。玉寄教育次長からの「教育行政組合の概要」についての講話において、今まで知らなかった学校と行政との関わり等を知ることができました。その他「教育心理検査の活用」「カウンセリング研修」「学級経営」「書道」等、様々な研修によって自己を磨くことができました。

また所外研修においては、島尻養護学校において一日体験交流を行い、特別支援教育のあり方について真剣に考えさせられる貴重な体験をさせていただきました。更に「環境学習」「沖縄の自然」「コンピュータ実技研修」等体験的・実用的な研修において、私達は視野を広め、現代社会が抱えている問題に触れ、学校現場で活用できる充実した内容の取り組みをさせていただきました。

クラブ活動では、沖縄伝統の「三線」に触れ、ほとんどが初心者にもかかわらず「安波節」「上り口節」「安里屋ユンタ」の三曲を研究員全員が弾けるようになりました。

私達は、教員である以上誰もが「プロ教師」を目指しているものと思います。幸い私達教育研究員7名は、島尻教育研究所という恵まれた環境における研修の機会を頂きました。7名それぞれが、近い将来を担う幼児児童生徒の健やかな育成を手助けできるような研修を深めていきたいと考えています。この六か月間で学んだことを教育活動において還元し、今後も更なる自己研修に努めて行きたいと思えます。

最後に、金城所長、安谷屋主任指導主事、甲斐指導主事を始め、指導講師の先生方、南部広域行政組合の皆様、大変お世話になりました。更に、このような貴重な研修の機会を与えて下さった教育委員会、所属学校長、その他関係各位に対し、厚くお礼を申し上げます。

平成17年度 教育研究員氏名・希望研究テーマ 一覧

【前期】第22期教育研究員

校 種	研究領域	氏 名	所 属	希 望 研 究 テ ー マ
小学校	国 語	大城 明海	東風平小	楽しみながら自ら進んで読書ができる子の育成
	算 数	金城 明美	阿嘉小	数概念を高める学習指導の工夫
	算 数	平良 振二	長嶺小	算数科における指導と評価の一体化を図るための工夫
中学校	英 語	根路銘みどり	豊見城中	エンカウンターを取り入れた英語教育
	経 営	大湾 悟	知念中	協働体制の確立を図った学年経営の工夫

【後期】第23期教育研究員

校 種	研究領域	氏 名	所 属	希 望 研 究 テ ー マ
幼稚園	幼稚園教育	金城 明美	潮平幼	幼児一人一人の発達に応じた教師の援助の工夫
小学校	算 数	佐久川かつ枝	米須小	自ら学び考え、進んで学習する子の育成
	道 徳	玉那覇三千代	潮平小	心に響く効果的な道德教育の指導
	特別支援	宮国 定明	上田小	「特別支援教育」に学級でどのように取り組めばよいか
	教育相談	三浦 リカ	百名小	よりよい人間関係の構築をめざして
中学校	保健体育	神谷 公子	潮平中	生活の中で保健・安全に積極的に取り組むことのできる生徒の育成
	経 営	垣花 英正	具志頭中	学級・学年PTAとの連携の在り方

※所属及び希望研究テーマは、応募時のものです。

平成16年度 新規購入図書一覧

教科等	書 名	著 者 等	発 行 所
国 語	新しい国語科授業の実際 小学校4年 楽しく学ぶ「話し方・聞き方」ワーク 小学4年 子どもが輝く国語科授業 言語事項編 子どもが輝く国語科授業 読むこと編 子どもが輝く国語科授業 話すこと・聞くこと 「伝え合う力」を育てる基本話型一学期本聴型ワーク 楽しく学ぶ「話し方・聞き方」ワーク 小学4年 喜びを子どもがつくる国語授業 6 豊かな話しことばを育てる 48 生きる力を育てる国語科 伝え合う力を高める感想交流学习 発信・受信双方向で「伝え合う力」を育てるワーク小学4年 国語科で育てる相互交流能力 小学校編 確かな国語力をつける授業モデル「読むこと」編 「伝え合う力」の育成と音声言語の重視	小森 茂 瀬川榮志 成家亘宏 藤田慶三 中山厚子 瀬川榮志 瀬川榮志 石田佐久馬 石田佐久馬 多久市立南部小学校 瀬川榮志 村松賢一・花田修一 井上一郎 小森茂	東洋館出版社 明治図書 東洋館出版社 東洋館出版社 東洋館出版社 明治図書 明治図書 東洋館出版社 東洋館出版社 国土社 明治図書 明治図書 明治図書 明治図書
社 会	中学校社会科のリニューアルと授業デザイン 「生きる力」を育てる社会科授業 社会科授業研究の理論 社会科固有の授業理論30の提言 学習技能の基礎・基本教え方大辞典小5～小6 授業で“学び方技能”をどう育てるか 「考える子ども」を育てる社会科の学習技能 個を生かす社会科「学習の複線化」事典 社会科「学ぶ力」を育てる授業づくり 小学校社会科指導と評価一体化の授業展開 最新世界の地理 小学校社会科指導と評価一体化の授業展開 中学校社会科絶対評価の方法と実際	澁澤文隆 北 俊夫 岩田一彦 岩田一彦 有田和正 谷 和樹 有田和正 北 俊夫 筑波大学付属小学校 寺崎千秋 川島孝郎 寺崎千秋 澁澤文隆	明治図書 明治図書 明治図書 明治図書 明治図書 明治図書 明治図書 明治図書 明治図書 明治図書 地歴社 明治図書 明治図書
算 数	基礎基本の徹底と創造性を培う算数教育 小学校算数科基礎・基本定着の指導技法 「関心・意欲・態度」「数学的な考え方」の指導と評価 はどうすれば成功するか	伊藤説朗 小島宏 新算数教育研究会	明治図書 明治図書 東洋館出版社
生 活	生活科・総合的な学習 -基礎基本と学習指導の実際-	嶋野道弘	東洋館出版社

教科等	書名	著者等	発行所
英 語	「自己表現活動」を取り入れた英語授業 小学校英語活動実践の手引 日本における英語教育の研究 小学校英語教育A to Z キーポイント早わかりガイド 実践的コミュニケーション能力のための英語のタスク活動と文法指導 「苦手」を「好き」に変える英語授業	田中武夫・田中知聡 文部科学省 和田 稔 和田 稔 高島英幸 滝口 優	大修館書店 開隆堂出版 桐原書店 開隆堂出版 大修館書店 大修館書店
道 徳	夢を育て実現させる30のいい話 ヒーローから生き方を学ぶ道徳授業 夢と希望を育てる生き方の教育 子どもに贈りたい120の言葉 新しい道徳教育の理念と方法 こうすれば心が育つ 総合ユニット方式による道徳学習	百瀬昭次 向山洋一 内藤勇次 佐々木勝男 押谷由夫 金井 肇 押谷由夫	学事出版 明治図書 学事出版 民衆社 東洋館出版社 小学館 東洋館出版社
総合学習	総合的学習の基礎づくり4「学び方を学ぶ」 中学校編	柴田義松	明治図書
指導方法	楽しい「授業づくり」入門 習熟度別指導・小人数指導を成功させる40のポイント 誰もが活用したい「確かな学力の形成」100の実践ポイント 発展的学習の指導の手引き 習熟度別指導の基礎・基本 少人数指導習熟度別指導 中学校個に応じる少人数指導	家本芳郎 浅沼 茂 高階玲治 高階玲治 工藤文三 加藤幸次 浅沼茂・松本光弘	高文研 教育開発研究所 教育開発研究所 教育開発研究所 教育開発研究所 ヴィヴル 黎明書房
評 価	確かな力を育てるポートフェリオ評価の方法と実践 これでできる！！ポートフェリオ実践戦略 自己評価活動が学校をかえる 「学習指導・評価」実践チェックリスト 総合的学習の評価	寺西和子 鈴木敏恵 古川 治 木原俊行 寺西和子	黎明書房 東洋館出版社 明治図書 教育開発研究所 明治図書
特別支援	教室で行う特別支援教育 LD, ADHD, 高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の準備のためのガイドライン 小・中学校におけるLD, ADHD, 高機能自閉症の子供への教育支援 LD・ADHD特別支援マニュアル 通常の学級におけるAD/HDの指導	國分康孝 文部科学省 上野一彦 森 孝一 全国情緒障害教育研	図書文化 東洋館出版社 教育開発研究所 明治図書 日本文化科学

教科等	書名	著者等	発行所
教育相談	アサーショントレーニング 子どものためのアサーショングループワーク エビデンス・ベースト・カウンセリング	平木典子 園田雅代 内山喜久雄	日本精神技術 日本精神技術 SHIBUNDO
幼児教育	新たな幼稚園教育の展開 幼稚園運営のポイントQ&A 幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集 自然と季節を楽しむ造形あそび 幼児理解と保育援助3 保育方法・指導法の研究6 保育内容「健康」7 保育内容「人間関係」8 保育内容「環境」9 保育内容「言葉」10 保育内容「表現」11 障害児保育 新しい保育の基本用語辞典 幼稚園教育の新たな展開 感性と表現に関する領域 表現 子どもから学ぶ保育活動「表現」 幼稚園・保育園での研究の進め方と実例 新しい幼児教育を学ぶ人のために	小田 豊 全国公立幼稚園長会 文部科学省 豊泉尚美・松本のり子 森上史朗・浜口順子 森上史朗・渡辺英則 杉原 隆・柴崎正行 森上史朗・吉村真理子 柴崎正行・田中泰行 高杉自子・柴崎正行 黒川建一 大場幸夫・柴崎正行 柴崎正行・綱野武博 無藤 隆・神長美津子 阿部明子・竹林実紀子 玉井美知子 民秋 言 岩田純一	東洋館出版社 ぎょうせい ひかりのくに 黎明書房 ミネルヴァ書房 ミネルヴァ書房 ミネルヴァ書房 ミネルヴァ書房 ミネルヴァ書房 ミネルヴァ書房 ミネルヴァ書房 ミネルヴァ書房 明治図書 ぎょうせい 東京書籍 学時出版 萌文書林 世界思想社
学校経営	指導力不足教員への経営戦略 学校における「情報提供」と「外部評価」の進め方 学校の自己点検・評価事例集		教育開発研究所 教育開発研究所 教育開発研究所

— ご利用にあたって —

- ・当研究所の図書は、島尻管内の教員であれば簡単な手続きでどなたでもご利用になれます。
- ・貸出期間は、一ヶ月間です。必要があれば貸出期間の延長もできます。
- ・一回の貸出期間は三ヶ月を限度とします。
- ・貸出時間は平日の午前九時から午後五時までです。返却もこの時間でお願いたします。
- ・貸出を希望する場合は「図書貸出名簿」に書名、氏名、連絡先、返却予定日などを記入します。
- ・貸出した図書が研究所で早急に必要となった場合は、貸出期間内であっても返却を求める場合があります。
- ・図書を破損、紛失した場合は、原則として弁償となりますのでご注意ください。

長期研修修了者名簿（所属は平成17年3月現在）

平成6年度後期(第1期)		
恒幸廣(三こうの会) 委員長 新垣 忠是		
1	新垣 忠是	与那原町教育委員会
2	小野寺清子	本 土
3	神村 逸子	糸満市立米須小学校
4	諸見謝 弘	南風原町立翔南小学校
5	荷川取千賀子	糸満市立米須小学校
6	野村 朝昭	糸満市立糸満中学校
平成7年度後期(第3期)		
コスモス山田 委員長 山田 宏		
7	富田 佐代子	豊見城市立とよみ幼稚園
8	佐久間美佐子	糸満市立潮平幼稚園
9	賀数 五十美	座間味村立座間味小学校
10	照屋 孝代	南風原町立津嘉山小学校
11	川崎 佳子	南風原町立南風原小学校
12	小波津久美子	南風原町立津嘉山小学校
13	山田 宏	糸満市立高嶺中学校
平成7年度後期(第3期)		
サンライズ7 委員長 亀川 盛敏		
14	與那嶺多喜子	豊見城市立座安幼稚園
15	又吉 ノリ子	糸満市立西崎幼稚園
16	平田 清美	糸満市立糸満南小学校
17	亀川 盛敏	豊見城市立とよみ小学校
18	新城 栄子	東風平町立白川小学校
19	仲村 克美	豊見城市立座安小学校
20	井上 律子	糸満市立糸満中学校
平成8年度前期(第4期)		
春風の会(はるかぜ) 委員長 玉城 美慧子		
21	當銘 ノリ子	豊見城市立伊良波幼稚園
22	玉城 美慧子	退 職
23	金城 佳子	糸満市立糸満南小学校
24	佐久本 広志	佐敷町立馬天小学校
25	徳村 政宜	国頭村立北国小学校
26	大城 典子	具志頭村立具志頭小学校
27	桃原 アサ子	那覇市立壺屋小学校
28	金城 正子	糸満市立潮平中学校
平成8年度後期(第5期)		
かんなの会 委員長 金城 欣也		
29	上原 則子	豊見城市立座安幼稚園
30	屋比久トシ子	糸満市立高嶺幼稚園
31	金城 欽也	糸満市立糸満小学校
32	與那嶺 政秀	豊見城市立長嶺小学校
33	久米 洋子	名護市立屋部小学校
34	玉城 智子	糸満市立糸満南小学校
35	又吉(高木) かおり	豊見城市立とよみ小学校
36	平良 幹子	豊見城市立伊良波小学校
37	座嘉比 幸枝	豊見城市立長嶺中学校
平成9年度前期(第6期)		
若葉の会(わかば) 委員長 照屋 静江		

39	宮城 利恵子	玉城村立船越小学校
40	具志(比嘉) 幸恵	豊見城市立座安小学校
41	富永 真智子	糸満市立西崎小学校
42	照屋 静江	大里村立大里南小学校
43	下地 米子	豊見城市立とよみ小学校
44	伊井 秀治	竹富町立西表中学校
平成9年度後期(第7期)		
チャンプルーズ 委員長 銘苅 繁雄		
45	上原 順子	糸満市立西崎幼稚園
46	仲里 竹子	南風原町立津嘉山幼稚園
47	上原 千秋	糸満市立糸満小学校
48	石川なおみ	与那原町立与那原東小学校
49	平田 勝典	玉城村教育委員会
50	玉那覇 明美	大里村立大里南小学校
51	銘苅 繁雄	島尻義護学校
52	前里 朱美	東風平町立東風平小学校
53	比嘉 智也	糸満市立糸満中学校
平成10年度前期(第8期)		
八起会(はちき) 委員長 徳元 ひろみ		
54	宮城 しのぶ	豊見城市立とよみ小学校
55	仲里 孝	豊見城市立上田小学校
56	徳元 ひろみ	糸満市立喜屋武小学校
57	比嘉 史江	那覇市立松島小学校
58	糸数 昌子	豊見城市立豊見城小学校
59	島袋 健	東村立高江小学校
60	友寄 弥栄子	玉城村立百名小学校
平成10年度後期(第9期)		
九枝会(凸凹会) 委員長 平安山 良康		
61	玉城 紀代子	糸満市立喜屋武幼稚園
62	玉城 久子	知念村立知念幼稚園
63	仲村 秀也	南風原町立津嘉山小学校
64	新垣 弘	東風平町立白川小学校
65	平安山 良康	伊平屋村立伊平屋小学校
66	金城 千秋	豊見城市立とよみ小学校
67	永山(大城) 公子	佐敷町立佐敷小学校
68	玉城 幸子	大里村立大里南小学校
69	知花 綾子	糸満市立潮平中学校
平成11年度前期(第10期)		
古都の会(こと) 委員長 伊計 徳善		
70	與那嶺 靖	玉城村立玉城小学校
71	伊計 徳善	石垣市立野底小学校
72	亀川 千明	豊見城市立豊見城小学校
73	下門 添美	東風平町立白川小学校
74	伊禮 恵美子	糸満市立兼城小学校
75	宮城 アケミ	那覇市立城東小学校
76	堀川 恵	豊見城市立伊良波中学校
平成11年度後期(第11期)		
まりもの会 委員長 仲西 栄信		
77	崎山 千鶴子	糸満市立兼城幼稚園

38	糸数 佐百合	佐敷町立馬天小学校
79	仲西 栄信	栗国村立栗国小学校
80	渡名喜 信	座間味村立阿波連小学校
81	能登 美智子	豊見城市立上田小学校
82	上原 弘充	東村立東小学校
83	金城 清美	佐敷町立馬天小学校
84	中村 愛子	佐敷町立馬天小学校
85	崎山 喜代子	与那城町立伊計中学校
平成12年度前期(第12期)		
恵の会(めぐみ) 委員長 比嘉 恵子		
86	大城 幸子	糸満市立光洋幼稚園
87	與那嶺 啓子	東風平町立白川小学校
88	橋川 由美子	豊見城市立上田小学校
89	比嘉 恵子	豊見城市立豊見城小学校
90	比嘉 恵子	知念村立知念小学校
91	加勢 美智子	糸満市立兼城中学校
平成12年度後期(第13期)		
瞳の会(ひとみ) 委員長 与那嶺 永子		
92	黒潮 彰	糸満市立糸満小学校
93	与那嶺 永子	玉城村立百名小学校
94	平良(島袋) 梢	名護市立真喜屋小学校
95	嘉手苺 友子	竹富町立大原小学校
96	與世田 典子	豊見城市立豊見城小学校
97	津嘉山さゆり	琉球大学附属小学校
平成13年度前期(第14期)		
百の会(もも) 委員長 真玉橋 初子		
98	国吉 和美	東風平町立東風平幼稚園
99	上原 綾子	南風原町立北丘幼稚園
100	末次 悦子	伊平屋村立野甫小学校
101	真玉橋 初子	今帰仁村立天底小学校
102	當山 園代	知念村立知念小学校
103	儀間 盛伸	南風原町立南風原中学校
104	新崎 順明	知念村立知念中学校
平成13年度後期(第15期)		
苺の会(いちご) 委員長 与那嶺 正子		
105	長嶺 初美	糸満市立高嶺幼稚園
106	金城 淳子	与那原町立与那原東小学校
107	嶺井 のぞみ	南風原町立翔南小学校
108	與那嶺 正子	東風平町立東風平小学校
109	上原 康秀	糸満市立潮平小学校
110	神里 美智子	東風平町立東風平中学校
111	唐真 清	豊見城市立豊見城中学校
平成14年度前期(第16期)		
獅子の会(しし) 委員長 前新 マチ子		
112	嘉手苺すみ江	与那原町立与那原幼稚園
113	大城 美恵子	大里村立大里南幼稚園
114	砂川 充	糸満市立米須小学校
115	前新 マチ子	具志頭村立具志頭小学校
116	金城 博美	玉城村立玉城小学校
117	渡名喜留美子	糸満市立西崎小学校
118	名嘉眞 朝靖	糸満市立西崎中学校

78	赤嶺 優子	豊見城市立長嶺幼稚園
平成14年度後期(第17期)		
雛の会(ひな) 委員長 宮城 伸子		
119	比嘉 由美子	糸満市立西崎幼稚園
120	赤嶺 律子	南風原町立北丘幼稚園
121	嶺井 順子	知念村立知念小学校
122	新垣 典彦	渡嘉敷村立渡嘉敷小学校
123	仲村渠ゆり子	渡名喜村立渡名喜小学校
124	崎原 貴子	東風平町立白川小学校
125	宮城 伸子	糸満市立西崎中学校
126	下地 早苗	豊見城市立長嶺中学校
平成15年度前期(第18期)		
わさびの会 委員長 来間 勝枝		
127	屋我 松枝	大里村立大里北幼稚園
128	翁長 麗子	南風原町立南風原幼稚園
129	當銘 恵子	糸満市立兼城小学校
130	比嘉 頼子	知念村立知念小学校
131	来間 勝枝	糸満市立真壁小学校
132	赤嶺 幸乃	糸満市立潮平中学校
133	小橋川あゆみ	座間味村立阿嘉中学校
平成15年度後期(第19期)		
ふぞろいの林檎の会 委員長 池城 路子		
134	照屋 信子	与那原町立与那原東幼稚園
135	稲嶺 彰子	糸満市立兼城幼稚園
136	池城 路子	知念村立知念小学校
137	上原 純子	玉城村立百名小学校
138	花城 みどり	豊見城市立豊見城小学校
139	又吉 孝子	南風原町立翔南小学校
140	平仲 麻紀	南風原町立南星中学校
141	角田 るり	豊見城市立豊見城中学校
平成16年度前期(第20期)		
ナ・ヴィーナス 委員長 上原 淳		
142	登 紀美	糸満市立糸満南幼稚園
143	宮城 美智子	糸満市立光洋小学校
144	古堅 みさえ	糸満市立糸満南小学校
145	土居 徹	大里村立大里南小学校
146	松下 啓子	豊見城市立長嶺中学校
147	上原 淳	具志頭村立具志頭中学校
平成16年度後期(第21期)		
もみじの会 委員長 比嘉 正樹		
148	伊集 恒子	玉城村立玉城幼稚園
149	宮平 やすみ	南風原町立北丘小学校
150	森 力	豊見城市立とよみ小学校
151	仲村 保	豊見城市立長嶺小学校
152	新崎 蘭子	佐敷町立佐敷小学校
153	比嘉 正樹	豊見城市立伊良波中学校
154	桃原 秀美	豊見城市立長嶺中学校

島尻教育研究所逍遙歌



島尻教育研究所逍遙歌

作詞 宮城恒彦
作曲 親泊明美

一 報得の流にゆるやかに
朝陽に映ゆるきびの原
指導の道を究めんと
集いしわれら意気高し

二 辿る道程 厳しけど
友の情に 涙
明日に灯 ともさんと
語る仲間の 声やさし

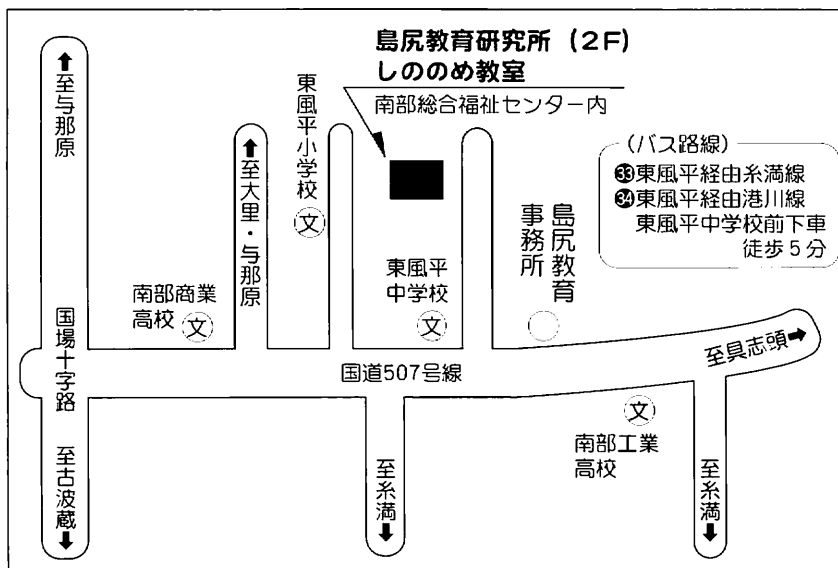
三 遙かに望む 八重瀬岳
うつろふ雲は 綾なして
ぬぐらへ急ぐ 群れ鳥に
光ほのかな 宵の星

東雲

所報「東雲」（しのめ）の意味するもの

「春は曙。やうやう白くなりゆく、山ぎは少し明かりて、紫立ちたる雲の細くたなびきたる」と、枕草子の巻頭に出てくる雲が東雲（しのめ）である。みるみる東の空は白んで明け方を迎える。

この名称は、本研究所を巣立ってゆく教師達の今後の活躍を期待していることと21世紀に向けて、夜明けのシンボルである東雲のような役目を果たす研究所とを意味している。なお、「東」の文字には所在地である東風平にも掛けている。



南部広域行政組合 島尻教育研究所

所長 金城弘一

〒901-0401 沖縄県島尻郡東風平町字東風平965番地

TEL 098-998-9561 FAX 098-998-9420

E-mail simaken1@southernx.ne.jp

simaken2@southernx.ne.jp